

## 4月からスタート「電力の自由化」 自然エネルギーを選ぼう！

いよいよ今年、4月より各家庭では電力会社を自由に選ぶことができます。いままでは各地域の電力会社が発電した電気を、送電線で各家庭に送っていました。平成27年6月、電気事業法が改正され、送配電線網の独占が排除され、新しく参入した電力会社も既存の送配電線網を使って顧客に送電することが可能になりました。これからはいろいろな会社が電気を作り、各家庭では好きな会社から電気を買うことができます。

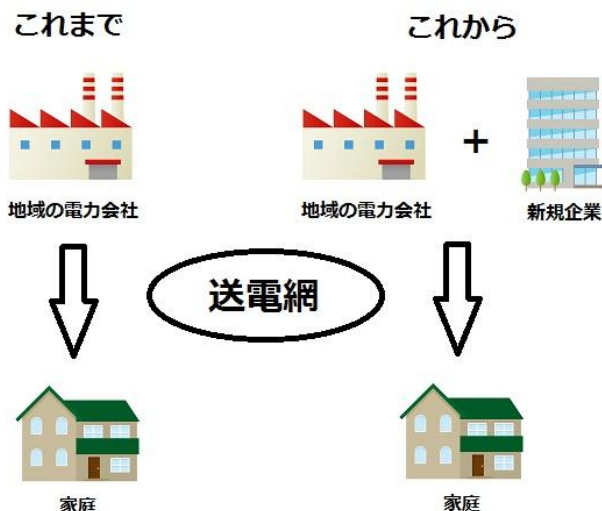
新規に参入の電力会社の登録はもうすでに開始されています。発電所を持つ企業だけでなく、電気を仕入れて売る、販売のみの会社も多くあります。

電力の全面自由化で、新たに電気を売ろうとする会社が続々と現れ、各電力会社では契約獲得のための広告や宣伝が目立ってきました。



現在は「このプランなら安くなりますよ」といった価格のアピールばかり目立ち、どこから電源を調達しているのかを示す「電源構成」がほとんどない。この一因は国が電源開示の義務化を見送り、事業者の判断に任せためと思われる。

電力会社を選ぶポイントとしては、各家庭のライフプラン、販売価格、各電力会社のメニューを調べることはもちろん、各電力会社の電気の原料は何か？化石燃料、太陽光発電、水力、風力発電など電源を重視して考える必要があります。



電力の自由化は、私たち消費者が電気の原料を選ぶことができるのです。地球環境を考えたときクリーンな自然エネルギーによって発電された電気の電力会社を選ぶことを考えていきたいと思えます。



## 電気の契約を選択することは未来を選択することである

いよいよ私たち各家庭では、電力の購入先が選べるようになった。そして私たちは電気の原料をも選ぶことが可能となった。

化石燃料に頼らず、再生可能エネルギーを電源とする事業者を選ぼうという家庭が増えている中、国が認可した電力事業者の一覧は、資源エネルギー庁のホームページに出ているが、電源構成（何を電源としているか）の開示がない。PR中心は価格競争とセット割である。準備の遅れは、残念ながら再生可能エネルギーの発電量が少ないことが原因となっている。

いち早く自然エネルギーの共同購入を取り入れた「生活クラブ」を見てみよう！



生活クラブで共同購入する電気は生活クラブの事務所や生活クラブが設立した発電所、協力団体から調達した太陽光や風力発電所の電気など自然エネルギーの割合が高い電気です。現時点では調達できる自然エネルギーの発電に限りがあるが、今後は自然エネルギーの拡大を目指します。

電気の契約を選択することは生き方や未来を選択することにつながります。生活クラブの電気を選ぶことで持続可能な社会づくりに参加しましょう。



“未来の子供のためのパワーシフト“

環境保護団体「パワーシフト・キャンペーン」事務局の調査、公開した情報

電源は再生エネを中心とした電力会社

4月1日から供給開始予定

- ① 水戸電力 水戸市  
茨城県中心の東電管内に供給
- ② LOOP 東京都文京区  
東電、中部電、関電の営業地域
- ③ みんなの電力  
首都圏を中心に9都県に供給
- ④ みやまスマートエネルギー  
福岡県みやま市。九州管内に供給

2016年度中に供給予定

- ① トドック電力 札幌市  
コープさっぽろ組合員の家庭が対象
- ② 千葉電力 千葉県八千代市  
東電管内。一般家庭は遅れるかも。
- ③ パルシステムグループ 新宿区  
9都県にある生協「パルシステム」組合員家庭が対象
- ④ 生活クラブエナジー  
21都道府県の生協「生活クラブ」組合員対象  
首都圏1500世帯は6月、他は今秋以降供給
- ⑤ 湘南電力 神奈川県平塚市  
事業用電力優先、一般家庭は今秋以降見込み

# 第4回市民環境講座「講演と映画の集い」実施報告

実施責任者 馬渡 敏隆

春一番の訪れた2月14日、流山市生涯学習センター多目的ホールで第4回市民講座「講演と映画の集い」を開催しました。

講演は「市民参加の自然エネルギーで地域づくり



の大変革」です。映画は「パワー・トゥ・ザ・ピープル」です。2011年3月東日本大震災後持続可能なエネルギーである自然エネルギーが地域コミュニティで急拡大しています。その研究の第一人者である飯田哲也氏をお迎えして市民参加による自然エネルギーの地域づくりについて、

事例交えてお話いただいた。

現在エネルギーは大規模独占が崩れ、小規模地域自立の自然エネルギーが増えている。自然エネルギーの活用により地域内で循環させることができるので、地域外に出ていく膨大なお金が地域内で循環するようになり、地域が潤うとのことです。下図のように、4千世帯・1万人のまちで年間10億円のお金が域内循環が生まれ、市民が潤う。自然エネルギーは地域を活性化する役割



が大きいそうです。これからは地域の人々が設備を持ち、自分たちのエネルギーを自分たちが作っていく「地産地消費」がキーワードのようです。初めて市民団体が中心となって市民から投資を募り、2001年に建設された「はまかぜちゃん」は現在も稼働しており、今では日本全国で180のご当地エネルギーが稼働しているそうです。



参加者の方から「自然エネルギー

の大切さがわかった。」「身近な問題でとって考えさせられた。」「ご当地エネルギーの多さに驚いた。」「世界規模での自然エネルギーの劇的な普及発展に驚いた。」「未来が明るく見えてきた。地域カスゴイ」など意見が寄せられました。講演のあとは自然エネルギーの導入による地域づくりについての映画「パワー・トゥ・ザ・ピープル」を上映しました。デンマーク・サムソ島は島外から電力を買わざるを得なかったが、太陽光発電、洋上風力発電等により自分たちのエネルギーを自分たちで作ることができるようになるまでの過程とその過程での地域のつながりや地元への絆が描かれています。私たちに勇気と力を与えてくれる明るいビジョンに満ち溢れた映画でした。

映画を見た感想は「住民が動いてエネルギー自給自足の仕組みづくりはすばらしい」「日本にも広がってほしい」など意見が寄せられました。今回の講演と映画を通じて市民参加の自然エネルギーの地域づくりについてお尋ねしたところ、90%以上の方から賛成、大いに賛成ご意見が寄せられました。

NPO温暖化防止ながらやまとして市民にお役に立つ活動の一環として「再生可能エネルギー推進プロジェクト」をスタートしました。第2回学習会では、2011福島原発事故後の変化と題して「新しい日本のエネルギー政策4つの話題」の学習会を開催しました。



- ①新しい気候変動対策・パリ協定
- ②具体化した長期エネルギー需要見通し・エネルギー基本計画：原発依存度を可能な限り低減する重要なベースロード電源とする位置づけ
- ③再生可能エネルギー普及政策：エネルギー自給率の向上・温室効果ガスの削減
- ④電力システム改革：発電の自由化・電力小売りの自由化・送配電の自由化。

# 第 102 回省エネルギー学習会

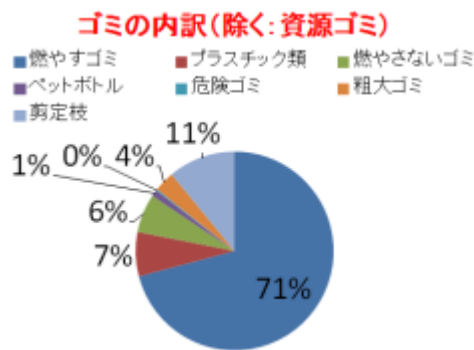
## ゴミ焼却に伴うCO<sub>2</sub>排出の現状とクリーンセンター見学会

平成28年1月8日（金）13時30分から、第102回省エネルギー学習会が流山市クリーンセンターで「ゴミ焼却に伴うCO<sub>2</sub>排出の現状とクリーンセンター見学会」のテーマで開催された。

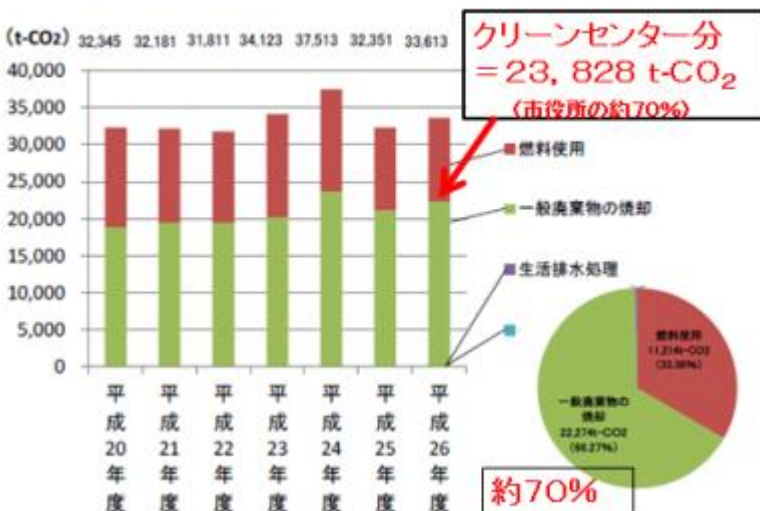
最初に「流山市クリーンセンターから排出されるCO<sub>2</sub>について」として当会の春田代表から下記の説明があった。

- ①流山市は人口増加に伴いCO<sub>2</sub>排出量が増加している。
- ②流山市の公共施設（市庁舎、小中学校、水道局、公民館、福祉会館・・・）から排出されるCO<sub>2</sub>の約70%をクリーンセンターが排出している。（平成25年度 流山市環境白書から）

- ③クリーンセンターからのCO<sub>2</sub>を削減するためには、可燃ゴミを減量すること、プラスチック類を適切に分別して排出することが重要である。



【市役所からの温室効果ガス排出量の推移】



現状説明の後クリーンセンター見学会となった。



(平成16年2月竣工、10年を経過する)



(容器包装プラスチックの分別ライン。汚れたプラスチック類は可燃ゴミになってしまう)



(中央監視センターでは、安定運転に神経を注いでいる。灯油使用量も監視している)

# 流山市地球温暖化防止対策実行計画について

WG長：春田育男

流山市では、流山市地球温暖化対策実行計画の改定（事務事業編、区域施策編）を進めています。当会は「地球温暖化実行計画見直しWG（ワーキンググループ）」を立上げ同実行計画を検討しております。

事務事業編は、市役所は多くのエネルギーを使用していることから、市内最大級の事業者として、市民や事業者への波及効果の大きさを踏まえ、より高い目標を掲げ、地球温暖化対策を率先して実行することを目的としています。

2005年度（平成17年度）に「ストップ温暖化！市役所アクションプログラム」を、2009年度（平成21年度）に「ストップ温暖化！流山市役所率先実行計画」を策定しています。今回は第3期として素案が策定されパブコメを実施しています。（発行予定：平成28年度）

区域施策編は、市内から排出される温室効果ガスを効果的に削減するため、市民、市民活動団体等、事業者、市の各主体がそれぞれの役割に応じた地球温暖化対策に取り組むことを目的としています。

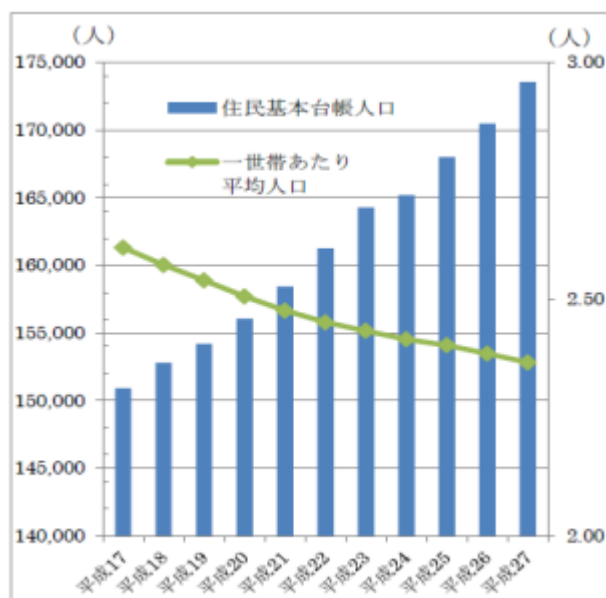
2005年度（平成17年度）に「ストップ温暖化！ながれやま計画」を、2009年度（平成20年度）に「ストップ温暖化！ながれやま20⇒20プラン」を策定しています。今回は第3期として見直し作業中です。（発行予定：平成29年度）

流山市は2005年（平成17年）に開業したつくばエクスプレスの効果により人口の増加が顕著になり（右表）中堅都市として発展を続けています。

これらの社会情勢や環境の現状に対応した「流山市地球温暖化実行計画」が求められています。



第2期 区域施策編「ストップ温暖化！ながれやま20⇒20プラン」（2010年3月発行）



# 平成27年度の活動報告

平成26年度の活動は、ほぼ予定通り実施出来ました。主なトピックスを報告します。

## 1. 省エネルギー学習会

平成19年(2007年)8月に始まったエコワット会議は、省エネ市民会議、省エネルギー学習会と名称を変更しながら平成28年3月には、第104回となった。平成27年11月に第100回記念として、慶應義塾大学理工学部 伊香賀俊治教授に「快適に暮らせるエネルギー効率の良い住環境」で講演していただいた。参加者は27名であった。第98回「電力自由化について」(東京電力 朝川陽一郎氏)の講演には23名の方々が参加された。見学会は「東京大学(柏キャンパス)」(10月)、「流山市クリーンセンター」(1月)であった。



(第100回省エネルギー学習会)

## 2. 2つのプロジェクト(PJ)

省エネルギーPJ(責任者:平手)と再生可能エネルギーPJ(責任者:馬渡)が発足した。省エネPJの活動目標は「各自の環境家計簿で、2013年度比で毎年3.5%削減を目標とし、行動の成果であるエネルギー消費量を年度ごと確認する。」としている。再エネPJは、「2030年の電源構成は、再生可能エネルギーは22~24%です。再エネの普及促進に向け、今年度は学習期間と捉える」としています。次年度はそれぞれのPJ活動が期待されています。



## 3. 出前講座

出前講座を5回開催しました。中でも向小金小学校、流山北小学校、おおたかの森小学校は、「ながれやまゴーヤクラブ」の協力を得て実施しました。



(おおたかの森小学校での出前講座)

## 4. 市民環境講座

4回開催しました。太陽のエネルギーを実感しよう!(6月)、夏休み親子工作教室(8月)、未来のために、いま選ぼう!~かしこい選択~(10月)、講演&映画会(2月)。参加者は延べ360名でした。

## 編集後記

ようやく、温暖化効果ガスの削減に取り組むための「地球温暖化対策計画」の政府の原案が、経済産業省と環境省の合同部会で発表された。

「2030年度に13年後比26%減」、長期目標として「50年80%減」を明記している。この原案は5月閣議決定することになっている。やっと日本も…

(石垣幸子)